

建設業界の企業分析

氏 名 野満 泰介

指導教員 武田 寛

要旨

本研究では、北九州地域周辺の上場建設企業 2 社の企業分析を行うことにより、建設業経営の知見を得ることを目的とする。分析対象企業は、北九州地域周辺にある上場企業の中から、若築建設株式会社と株式会社エムビーエスを選定した。若築建設は、北九州市若松区に本社を置く企業であること、エムビーエスは、山口県宇部市に本社を置く成長著しい企業であることから、両社の経営から学ぶことが多いと考えたためである。

本研究の結果、以下のことがわかった。

若築建設については、

- (1) 大手総合建設業である若築建設は、国土交通省「建設総合統計」の建設工事出来高の推移と同様の動きをみせており、国内外の景気動向に大きな影響を受けている。
- (2) 過去 20 年間の年平均成長率は、売上高マイナス 1%、経常利益 0%である。2021 年度の名目建設投資は、61 兆 8,000 億円と前年度比マイナス 2.4%と減少傾向である中、優位性を保ち、企業を成長させていくには、独自性が必要である。
- (3) 建設受注高の目標 1,000 億円と営業利益の目標 50 億円は、2020 年 3 月期には目標に近づいている。
- (4) ROE 目標 9%では、新型コロナウイルス禍以前の 4 期は 10%を越えており、可能な数字である。

エムビーエスについては、

- (5) 建設工事業であるエムビーエスは「ホームメイキャップ」というブランドを軸に事業展開を行い、独自のビジネスモデルを構築して、高い収益性を確保している。
- (6) 過去 20 年間の年平均成長率は、売上高 22%、経常利益 35%である。今後についても 8 兆円規模の住宅リフォーム市場での市場シェア拡大と、4 兆円規模でのスケルトン防災コーティング施工の受注拡大により高成長を目指す。
- (7) 売上高経常利益率 10%以上の目標は、2021 年 5 月期を除いて達成している。
- (8) CSR についてはビジョンと方針はあるが具体的な取組の内容は開示されていない。